

近畿中国局フォレスターNEWS

県と地域林政連絡会議を開催（和歌山県）



和歌山森林管理署と和歌山県は、6月1日に和歌山森林管理署会議室で地域林政連絡会議を開催しました。会議では、国有林から、森林管理局、森林管理署の重点取組、県から、森林・林業施策の概要の説明を行いました。その後、獣害対策と低コスト造林について情報交換しました。

情報交換では、①獣害対策は県の農と林が連携して取り組むが、それに和歌山署も加わり対策を講じる、②シカの管理捕獲では、通常の管理捕獲(1,500頭目標)以外に、大型捕獲ワナ(サークルD)を山林内に7カ所設置し、通年実施して500頭を目標に捕獲する、③果樹試験場と共同で捕獲センサーを開発中であるが、不具合により作動しないことがあり改良中である、④獣害がなくなれば、これが最大の低コスト造林となる、⑤コンテナ苗生産者について、今まで1者だったが3者が取組を始めた。コンテナ苗を量産していくには、生産はしたが買ってくれないというリスクを冒したくないので、県内だけでなく近畿内で調整する等の検討が必要、⑥普通苗が主流の中、コンテナ苗を普及していくには色々なデータの積み上げが必要等の意見がありました。

和歌山署は、今後も県とより一層の疎通を図り、国有林のフィールド提供を行い、県等の各種会議・検討会等に参加して情報収集・共有を図っていきます。

県と地域林政連絡会議を開催（三重県）

三重森林管理署と三重県は、6月30日に三重県庁で地域林政連絡会議を開催しました。当日は森林管理局から重点取組の情報提供の後、意見交換を行いました。意見交換では、森林・林業の再生に向けた取組として、県から、①伊勢志摩サミットにおける県産材利用として首脳会議用円卓が使用されるなど知名度を上げることができた、②県産材の韓国向け原木輸出を開始した、③県産材の輸出量は、中国・台湾向けの土木用材が圧倒的に多い、④三重県材としてのブランドは高評価で、三重県材として差別化を図れないか模索しているとの説明がありました。署からは、①署の重点取組に沿って、木材の安定供給に寄与していく、②7月25日に、北勢地域で新たな森林共同施業団地を設定することを説明しました。



シカ被害対策については、県から、①シカによる林業被害は、皮剥が深刻な状況、②第二種特定鳥獣管理計画変更により年間捕獲目標を上方修正し、「捕れるだけ捕っていく」姿勢で捕獲強化に取り組んでいくとの説明がありました。署からは、①昨年度調査でシカの季節移動が解明された。この調査結果を基に、移動経路を限定し、シカの追い込み誘導柵として利用するために、植生保護柵ネットの2列張りを実施、シカを誘導することにより、捕獲効果が高まることを期待、②銃捕獲よりも、登山者への影響が少ないワナによる捕獲を実施していくと説明しました。

三重署は、以上の課題等について、今後も三重県と意見交換を実施し、連携した取組を進めていきます。

林野庁
近畿中国森林管理局
技術普及課



国民の森林・国有林

TEL: 06-6881-3524 FAX: 06-6881-2055
URL: <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>
〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

今号では、県との地域林政連絡会議の記事にしてみました。各府県で、充実した会議が開催されていることと思います。さて、数日前に気象庁から関西の梅雨明け宣言がありました。今から暑い日が続きますが、体調管理をよろしくお祈りします。

